

## 「ドラッカーはなぜ、面白いのか？」

### 世界がわかり、社会がわかる

ドラッカーとは現代社会最高の哲人である。本人に言わせるならば、社会生態学者である。社会生態学者は、自然生態学者が自然の変化を観察するように、社会の変化を観察する。変化を見つけて、それが本物の変化かどうかを識別する。その変化の意味を教える。

ドラッカーは、ゲーテの戯曲『ファウスト』の最終幕で櫓に立つ物見の役リエンケウスに自らをたとえる。物見の役からの報告ほどに役に立ち、面白いものはない。

ドラッカーは、あらゆる問題について経済的な側面を重視する。しかし、経済的な側面は重視しても、経済という領域を独立したものとして見ることは拒否する。ドラッカーにとって、経済は社会における一つの側面であり一つの手段にすぎない。だからこそ、ドラッカーの論文はよく読まれる。

### 組織のマネジメントがわかる

ドラッカーとはマネジメントの父である。いかなるイズム（主義）も産業革命の果実を実らせることができなかつたとき、ドラッカーが、財サービスの豊かさは組織の運営の仕方いかんであり、そこに働く人の自己実現も組織の運営の仕方いかんであることを明らかにした。その組織の運営の仕方がマネジメントだった。

マネジメントのフレームワークを明らかにし、必要とされるスキルのほとんどを開発したのがドラッカーだった。組織に働くわれわれが、ドラッカーを読んで面白くないわけがない。マネジメントの本質がわかる。しかも、文明の担い手は、政治家、軍人、学者ではなく、組織に働く部課長さん、中堅社員、新人社員、あなた方ですよとってくれる。

成功した経営者、繁栄する組織にはドラッカーの言うとおりにしたからと言う人が多い。

### 明日のための問題のとらえ方がわかる

そう、ドラッカーとはそれぞれのドラッカーである。中世の暗黒を前にして、一つの事実を与えてくれればもう一つの事実、そこからさらにもう一つの事実を明らかにし、森羅万象、神の存在まで論理の力によって明らかにできるはずと言った幾何学者がいた。そこからモダンすなわち近代合理主義が生まれ、技能が技術となり、科学が生まれ、産業が生まれた。

ところが21世紀に入るや、大事な問題のほとんどは論理だけでは処理できないこととなった。すべてあたかも命あるかのように、問題の全体をとらえなければならない。かくして学者のご託宣に違和感を持つとき、ドラッカーが、あなたの見方の方が正しいと言ってくれる。かくして、ドラッカーを読めば自分のために書いてくれていることを知る。しかも、明日のための問題のとらえ方がわかり、とるべき行動がわかる。

だからドラッカーは、何回読んでも面白い。

2010年1月

上田 惇生